

ウェルビーイングと ウェルダイイング

日本思想、中国思想、西洋哲学の立場から

Well-being and Well-dying Japanese, Chinese, and Western Philosophical Approaches

2026年3月7日 土 13:30~16:30

会場：東北大学文学部第1講義室 入場無料 申込不要



片岡 龍 (教授・日本思想史)

KATAOKA Ryu

1 ウェルビーイングと養生

近年、日本では「ウェルビーイング」や「養生」という言葉を、よく耳にするようになりました。こうした語が注目を集める背景には、どのような社会の変化や、死生観の移り変わりがあるのでしょうか。また、これは日本に限られた問題でしょうか。あるいは、時代を超えた普遍的問題はふくまれているのでしょうか。この講座では、ウェルビーイングという語が日本でいつごろ登場したか、それは古くからある養生という語とどうつながるか、そして人文学はそこにどう関わるかといった問題を考えてみたいと思います。



齋藤 智寛 (教授・中国思想)

SAITO Tomohiro

2 中国仏教のウェルダイイング

一般に伝統中国では人は結婚し子を成して家族を営むのが幸福な生き方とされ、老いた親の看病、介護は大事な孝行の実践です。しかし、家庭を離れて出家した僧侶や道士が老い、病んだ場合にはどうすれば良いのでしょうか。唐代の中国で編纂された僧侶の伝記や寺院運営のマニュアルを題材に、家族を持たない人々の共同体のありようを垣間見てみたいと思います。



荻原 理 (教授・西洋哲学)

OGIHARA Satoshi

3 西洋哲学におけるウェルビーイング、ウェルダイイング

よく生きることやよい死に方について、西洋でもさまざまに考えられてきました。古代にソクラテスやプラトンが、中世にトマス・アキナスが、近代にカントやミルが、現代はニーチェやサルトルが、「われわれはどう生きればよいのか」を語りました。哲学者たちのそうした思索をざっと見渡し、そこから何を学ぶことができるのかをみなさんと一緒に考えたいとおもいます。臨床心理学者の東畑開人(とうはた かいと)氏のことも触れる予定です。



東北大学

東北大学川内南キャンパス内

地下鉄東西線川内駅・・・徒歩5分

国際センター駅・・・徒歩6分(坂・階段あり)

※会場に駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

主催：東北大学大学院文学研究科

問合せ：東北大学文学部・文学研究科総務企画係 TEL：022-795-6003

E-mail art-syom@grp.tohoku.ac.jp HP <https://www.sal.tohoku.ac.jp>

